

2020



ANNUAL REPORT

1 ダイアログ・ミュージアム
「対話の森」オープン

3 コロナ禍での挑戦

5 コロナ禍だからこそ
できたこと

12 代表あいさつ

13 事業紹介

28 団体概要



**Dialogue Japan
Society**



2020.8.23
東京・竹芝に
ダイアログ・
ミュージアム
「対話の森」 OPEN



ダイアログ・ミュージアム 「対話の森」

見えないからこそ、みえるもの。
聞こえないからこそ、聴こえるもの。
老いるからこそ、学べること。

目以外の感性を使い楽しむことのできる「ダーク」では、
見た目や固定観念から解放された対話を。
表情やボディランゲージで楽しむ「サイレンス」では、
言語や文化の壁を超えた対話を。
そして「タイム」では、
年齢や世代を超え、生き方について対話をします。

世代。ハンディキャップ。文化。宗教。民族。
世の中を分断しているたくさんのを、
出会いと対話によってつなぎ、
ダイバーシティを体感するミュージアム。

この場で生まれていく「対話」が展示物です。

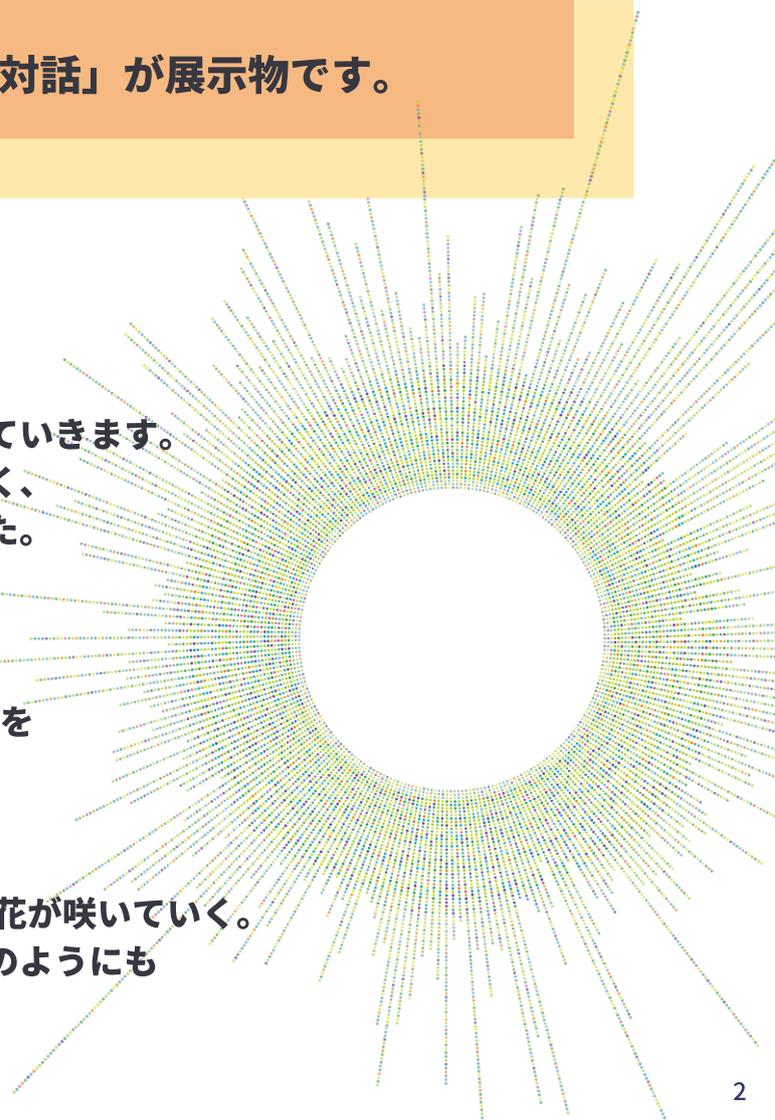
シンボルに込めたメッセージ

この森は、対話によってはじまり、育まれていきます。
対話の森のシンボルを、私たちだけではなく、
あなたと一緒にかたちにしたいと思いました。

あなたにとって「対話」とは？

1300名の方から集まった「対話」への思いを
つなぎ合わせることで、
対話の森のシンボルが誕生しました。

会話に花が咲くように、いくつもの対話に花が咲いていく。
それはまるで太陽のようにも、光のゲートのようにも
見えます。
あなたには何に見えますか？



コロナ禍での挑戦

第1回
緊急事態宣言
04/07-05/25

2020.3

● コロナ一斉休校

● ダイアログ・イン・ザ・ダーク初のオンラインへのチャレンジ
子ども向けオンラインスタディ 開催

2020.4

● 収益の9割を占める企業研修
すべてがキャンセルに。
収益激減で家賃支払いのピンチ

2020.5

● コロナ禍における視聴覚障害者の困難実態アンケート・記者発表
30社以上の媒体に掲載され、東京都の施策にも引用される

● 見えない聞こえないを超え、
オンラインmtgに励む日々が続く



2020.6

● 大人向けオンラインワークショップの開発
カタリバ、N高等の子ども向けオンラインスタディ
コラボがスタート

2020.8

● 「対話の森」オープン&世界初の
「ダイアログ・イン・ザ・ライト」スタート

● ダイアログ・イン・サイレンスを
萩生田文科大臣が体験・視察



2020.9

● マンスリーサポーター「森の住民」発足
コミュニティ化に向けての取り組みスタート

2020.10

● 「ダイアログ・イン・サイレンス」初!
都内小学校への出張開催&萩生田文科大臣が視察



● 「対話の森」初! 港区内小学校4年生の児童が
小学校授業の一環として、ダークとサイレンスを体験

2020.11

● Youtube生配信デビュー! 「盲点からのアプローチ」

● 「ダイアログ・イン・ザ・ライト〜はれところにより暗闇」スタート

2020.12

● 第二回 視聴覚障害者へのアンケート・記者発表

● 「ダイアログ・イン・サイレンス」初のクリスマスバージョンを開催

2021.1

日本PR大賞受賞

コロナ禍での「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」開催に向けアテンド研修スタート

2021.2

第三回コロナ禍における聴覚障害者の実態アンケート・記者発表

「対話の森」存続とこども5000人体験にむけクラウドファンディングスタート

マンスリーサポーター150名突破！

世界初、マスクをしたままおいしいカフェ「エアカフェ」開催



「ダイアログ・イン・ザ・ライト」初！中学校での出張開催

2020.3

今だからこそを詰め込んだ「ダイアログ・イン・ザ・ダーク～暗闇で再会しよう～」スタート！



ダイアログ・イン・ザ・ダーク オンラインスタディ@佐賀（佐賀ふるさと納税を活用）

ダイアログ・ウィズ・タイム 83歳アテンドが大学生200名を前にオンライン講義



クラウドファンディング終了！
1391名の方から、23,055,999円ものご支援をいただき達成！！

ダイアログ・ミュージアム体験者数4500名突破！

ダイアログ・ミュージアム休館

大阪「対話のある家」休館（～休館継続）

ダイアログ・ミュージアム再開

今後

サイレンス第二期「ダイアログ・アテンドスクール」開講（企業・団体勤務の聴覚障害者向け）
こどもダイアログ体験5000人招待プロジェクトスタート

第2回
緊急事態宣言
01/08-03/21

第3回
緊急事態宣言
04/08-05/25

2021.4.23

DIALOGUE IN THE LIGHT

WITHコロナだからこそ、社会に必要な ソーシャルエンターテイメント

コロナ禍にオープンしたダイアログ・ミュージアムでは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、真っ暗闇の「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」の会場に明かりを灯し、世界初となる「ダイアログ・イン・ザ・ライト」として期間限定でアレンジし開催。目に見える会場で視覚障害者スタッフとともに「旅」をしながら眠っている五感と呼び起こすとともに、人と出会い、対話することの楽しさと豊かさを再発見するプログラムとなりました。

開催期間
ダイアログ・イン・ザ・ライト 2020年8月23日～11月13日
晴れところにより暗闇 2020年11月21日～2021年1月11日
来場者数 1100名

知らない世界への扉を
開けてくださって
ありがとうございます。

他の人と直接会ってお話しすることも久しぶりだったので、このような機会がないと、自分自身とも心の中で対話しないのだなと気がつきました。もっともっと時間が欲しかったと思うくらい、あっという間の濃い時間でした。

対話の中から新しい
気づきや視点を導き
出して頂き、本当に
ありがとうございます。

Voice

体験者の感想

私は1人1人の声がそれだけで本当に尊いと思っています。違うということが、とても大切。ただ、日常生活の中でそれを思い出すことは難しい。対話の森は、その違いを感じやすい場所だから、感覚が開くと思う。そう、アテンドの皆さんは私たちを開いてくれる鍵、新しい世界、見方を照らしてくれる光。めっちゃ、かっこよかったです！ありがとうございます！

ダイアログ オンラインスタディ

自分が知らないことは
誰かが知っている。
自分が知っていることは、
誰かは知らないこともある。
対話をしながら、
教えあいっこして、
知るを増やそう。



2月下旬より実施された

新型コロナウイルス感染拡大による学校臨時休校。

これまで多くの子もたちと暗闇で対話をしてきた

アテンドたちはこのニュースを受け、「子どもたちの学びを止めたくない」

「対話は暗闇の中だけであるものではない」という想いを抱きました。

彼らの多くは視覚を使わず、社会の大多数とは異なる学習方法で学びを深めてきています。

工夫に富んだその方法が、ひょっとするとこれからの学びや探究の可能性を拓くヒントになるかもしれない。偶然一緒になったこども・大人たちと、学年や年齢、障害など普段の垣根を超え対話すれば、普段提供しているダイアログ・イン・ザ・ダークのように、新たな発見の場にきつとなる。

閉鎖的な今、学校以外の学びが求められる今だからこそ、子どもたちに向けて、対話から生まれる
発見やポジティブに未来を創造するためのヒントを届けたい—

そんな願いのもと、『対話型学習』オンラインスタディがスタート。

無償でスタートしたもの、学校・団体からの反響が大きく正式にプログラム化。ダイバーシティ理解や
感性への気づきのみならず、対話やコミュニケーションを目的とし利用していただいています。

「あの会がある前は目が見える人と目が見えない人には壁があると思ったけど、会に参加して、だんだん壁を感じなくなり壁はないと思うようになった」(小学生)

「直接会っていない分、みんなが相手の話にすごい集中して聞いているなと思いました。」(高校生)

開催実績

ダイアログオリジナル開催の他、

ドワンゴN高等学校

NPO法人カタリバ

株式会社スコップ

玉川大学

茨城県立高校

など多くの学校・団体にて開催

体験者数 803名

Voice

体験者の感想

マスク生活が当たり前。 表情が読み取りにくい今だからこそ マスクからはみ出るほどの笑顔を！ ダイアログ・イン・サイレンス



新型コロナウイルス感染拡大以前、サイレンスは表情全体を使って、コミュニケーションを楽しむことがコンセプトでした。コロナ禍でマスク着用が当たり前となった時、聴覚障害者のスタッフはこう話してくれました「街中から笑顔が消えたように感じる」、と。学校給食やランチでも声でのおしゃべりも控えざるを得ず、にぎやかな毎日が失われてしまったように感じていました。

しかし私たちは、コミュニケーションを諦めない方法を、サイレンスで見つけました。マスクの中でサボってしまいがちな表情は、忘れることなく「マスクからはみでる笑顔」を。そしてボディーランゲージがあれば「しずかなおしゃべり」も楽しめる。ニューノーマルならではのコミュニケーションのヒントを体感できるプログラムにバージョンアップし、開催しました。



開催実績

2020年8月23日-11月23日
2020年12月1日-12月25日 クリスマスバージョン
2020年12月26日-現在
体験者数 2366名
(2020年8月～2021年3月)



萩生田文部科学大臣がご体験・視察

萩生田大臣は「初めての体験で、最初は少し不安でしたが、聴覚に障害がある方とこうやってコミュニケーションをとれるのだなと感じました。すごくいい体験でした。」とお話されたとともに、小学生などに是非体験してもらいたいとし「子供たちが経験して想像力を育むことは大事ですし、聴覚の障害のある方への思いやりも芽生えると思うので、良い体験だと思います。障害がある方への理解がすすみ、コミュニケーションがとれたり、対等にみんなと仲良くできたりするというマインドを育むためにもいいのでは」とコメントくださいました。

世界初の「エアカフェ」 飲食が制限された今だからこそ、 想像と空想の力を発揮しよう。



このカフェには、マスクを外して食べなくてはならないコーヒーやケーキも、触れることにナイーブになってしまいがちなカップやコーヒーもありません。

”エア”なカフェの文字通り、リアルな飲食は伴いません。表情とボディランゲージのプロである、聴覚障害者のスタッフが店員となり、”エア”で本物以上においしいカフェメニューをご提供。

メニューはあなたの気分で香りが変わるコーヒー、裏の畑でたった今もぎ取ったフレッシュジュース、出来立てのイチゴショート…。想像が生み出す「飲食」を楽しみます。



新型コロナウイルス感染拡大以前、街中のカフェにはたわいないおしゃべりや偶然の出会いといった「ダイアログ=対話」のきっかけが溢れていました。

今、飲食は一時的に制限されたとしても、対話の場までもあきらめることはない私たちは信じています。



聞こえないスタッフの力を借りて、コロナ禍で停滞しがちな想像力を存分に発揮し、対話を楽しむ。今だからこそ生まれた、飲食のない、対話のある、世界初のカフェです。

開催実績

2020年2月25.27日

2021年3月27日

2021年6月26.27日

体験者数154名

Voice

体験者の感想

コロナで自粛することばかりでした。人と会って、何かを一緒にすることもご法度という世の中ですが、人と伝え合うことの大切さをまざまざと感じました。

子どもの中でいろんな化学変化が起きているのが分かりました。

自分の名前を何度も練習し、
帰り際にはシェフ達に、
またねを言いに行きたい、
と自ら駆け寄って
チョコしていました。

エアなので想像力を働かせ、
ワガママを言わせて頂き、
とても楽しかったです。
久しぶりに大笑いしました！

サイレンス&ライト はじめての 学校出張開催！



飛沫感染防止のため、給食も黙って食べなくてはならないー。

自由なおしゃべりもままならないし、新しい体験も難しいー。

新型コロナウイルス感染拡大以降、あらゆる制限を強いられているのは、私たち大人だけではありません。

非常事態に置かれている子どもたちに私達ができることを考え続けた結果、サイレンスとライトの小・中学校での出張開催のご縁をいただき、開催が叶いました。

まずはサイレンス。長時間に及ぶプログラムでも、子どもたちはアテンドやクラスメイトの目を見て、身体いっぱいのボディランゲージで伝え合い、いくつかの手話もマスター。

最後にはアテンドに駆け寄り、手話で「ありがとう！」や「またね！！」と挨拶。

表情やボディランゲージなら「おしゃべり」ができること、コミュニケーションの方法はひとつではないこと、そして互いの文化や特徴が違っても、工夫すれば遊ぶことができるということ、子どもたちと体感しあいました。

そして、ライト。修学旅行が中止となり、異文化や多様性理解の機会が少なくなった中学校にダークアテンドが赴き、「1.5メートルのソーシャルディスタンスを図って、視覚障害者と遊べる遊び」を一緒に考えました。リアルに出会い仲間になり、共に遊び、何かを作り上げる時間が、より身近な多様性理解につながったようです。

ライト出張 開催実績
東京都立白鷗中・高等学校
体験生徒 155名

サイレンス出張 開催実績
調布市立飛田給小学校
新宿区立花園小学校
杉並区立杉並第七小学校
体験児童 157名

萩生田文部科学大臣が視察



「子供たちが、初めての体験であるにもかかわらず、ジェスチャーなどを用いて、いきいきと、積極的にプログラムに参加していたのが印象的でした。」とお話されました。

FACTBOOK 2020

CONTENTS

- 12 代表あいさつ
- 13 事業：3つのソーシャルエンターテイメント
- 19 事業：企業・社会との協働や連携
- 21 事業：子ども・学校への取り組み
- 23 事業：障害者雇用・育成と実態調査・研究
- 25 サポーター制度
- 28 団体概要・沿革

目の前の社会課題を 対話と ソーシャルエンターテイメントで 解決する

わたしたちが暮らすこの社会において、最も大切にしなければならない財産は、「ひと＝人」だと思っています。

社会的資本である「人」を生きしめるためには、それぞれの個性や文化、立場を認め合い、尊重しなくてはなりません。そこには、おたがいを認め合うための「対話」が必要になります。

しかしながら現在、地域社会、学校、企業、家庭……さまざまな場における、コミュニケーションが圧倒的に不足し、「人」の可能性も低下していると感じています。一人ひとりが、対等に対話し、協力し、信頼し、安心して社会参加することのできる、多様性ある豊かな社会の形成と、発展のために、この事業に取り組んでいます。

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ



代表あいさつ

ダイアログ・イン・ザ・ダークを初めて体験したとき、暗闇で迷子になりました。足元には藪が茂り、道が見つからない。他の参加者の声が遠くのほうで聞こえます。声を出して助けを求めればいいのに、迷惑をかけてはいけないと思うと、ことばが出ませんでした。

そのときです。誰かがわたしの手を取り「こっち」と道を示してくれました。その手の持ち主は、暗闇のなかの案内人、アテンドでした。

「どうしてわたしが迷子だと分かったの？」と聞くと、「迷子の音がしたから。衣擦れの音が小刻みになって、白杖をつく音が変わったもの」というのです。視覚とは異なる力、音を観るその力に驚きました。

「街や駅で、自分がどこにいるのか、分からなくなるときがあるんです。でもそんなとき、たくさんのかたが助けてくださる。わたしたちは、きっと誰よりも、人の温かさを知っています」—。

そう、彼らは日常的にこうした体験を繰り返していたのです。ふだんの生活では気づくことのできない「大切なこと」を、このとき教わりました。

暗闇の中で自分の知らない文化を持つ人と出会ったわたしのよう、ダイアログを訪れてくださったかたに、ダイバーシティの扉を開けていただけたらと願っています。未知との遭遇は想像以上に豊かで、楽しく、感動に溢れています。そして、わたしたちは、その先に訪れる社会を見たくてこの活動を続けています。それは、声をかけあい、助け合い、誰もが自分の能力を生かすことのできる、そんな社会の実現につながると信じているからです。

2017年から、音のない世界で生きる聴覚障害者と「ダイアログ・イン・サイレンス」を、そして2019年から高齢者と「ダイアログ・ウィズ・タイム」をスタートしました。「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」と併せ、3つのエンターテイメントを通し、新たな一歩を踏み出せたことに大きな喜びを感じるとともに、ダイアログを応援くださる方々に、心より感謝申し上げます。

一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
代表理事 志村季世恵

志村季世恵プロフィール
一般社団法人 ダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事
パースセラピスト
こども環境会議 代表 ダイアログ・イン・ザ・ダーク 理事

パースセラピストとして、人の誕生から臨終までを含めた延べ4万人を超えるカウンセリングを行う。

妊婦や子育てに悩む母、心にトラブルを抱える人をメインにカウンセリング。その活動を通し『こども環境会議』を設立。1999年からはダイアログ・イン・ザ・ダーク理事となり、多様性への理解と世の中に対話の必要性を伝えている。また、末期がんを患う方へのターミナルケアは独自の手法を以て本人や家族と関わり、その方法は多くの医療者から注目を浴びている。ワークショップ、ファシリテーションの日本での第一人者であると共に人を幸せにする商品企画開発を通販会社とタイアップし展開。ロングラン商品開発に定評がある。講演、ワークショップなど多数。4児の母。

主な著書：

「さよならの先」『いのちのバトン』（講談社文庫）
『大人のための幸せレッスン』（集英社新書）『ママ・マインド』（岩崎書店）
『親と子が育てられるとき』（内田也哉子共著・岩波アクティブ新書）等
「まっくらな中での対話」（講談社文庫）脳科学者茂木健一郎氏と暗闇での対談





DIALOGUE IN THE DARK

目以外のなにかで ものをみたことがありますか？



この場は完全に光を閉ざした“純度100%の暗闇”。

ダイアログ・イン・ザ・ダークは、視覚障害者の案内により、完全に光を遮断した”純度100%の暗闇”の中で、視覚以外の様々な感覚やコミュニケーションを楽しむソーシャル・エンターテインメントです。

1988年に、ドイツの哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案によって生まれたこのプログラムは、これまで世界41カ国以上で開催され、800万人を超える人々が体験。

日本では、1999年11月の初開催以降、これまで23万人以上が体験しています。暗闇での体験を通して、人と人とのかかわりや対話の大切さ、五感の豊かさを感じる「ソーシャルエンターテインメント」です。

<https://did.dialogue.or.jp/>

創設（1988）ドイツの哲学博士
アンドレアス・ハイネッケ
開催実績 世界50 カ国以上
体験者数 800 万人超

日本開催（1999）11月初開催
体験者数 23 万人超
会場

（2009）東京・外苑前会場常設

（2013）大阪「対話のある家」常設

（2017）東京・浅草橋会場へ移転

（2019）東京・神宮外苑会場

「内なる美、ととのう暗闇」常設

（2020）東京・竹芝

ダイアログ・ミュージアム

「対話の森」常設

▶2021年8月現在

東京・竹芝「対話の森」開催中

東京・神宮外苑「内なる美、ととのう暗闇」

コロナにより休館

大阪「対話のある家」コロナにより休館

Voice

体験者の感想



今、コロナで周りの人との実質的な距離だけではなく、心の距離や壁ができていていると思うのですが、暗闇の中でこんなにも人の存在があたたかいものかと思えたのが嬉しかったです。（40代・女性）

想ぞうできるので、いつも目が見えるよりは、目が見えていない方が得しているんじゃないのか？と初めて思いました。（8歳・女の子）

導いてもらうってとても心地良いですね。何でも自分で決めて、自分が行動できる時代だからこそ、ゆだねる心地よさが価値になることを再確認させていただきました。（男性）

不思議と人との距離が普段と違う感じに。心が落ち着きました。（男性）



DLALNG
IN THE
DARK

「暗闇で再会しよう」
コロナ禍における
ダイアログ・イン・ザ・ダーク



これまでダイアログの暗闇では「人と人々が実際に触れあう」ことでそのあたたかさを感じていただきました。

コロナ禍ではどうしても密になりがちであったため、東京での「ダーク」運営を中止、明るいところで視覚障害者とともに対話する「ダイアログ・イン・ザ・ライト」として運営を続けながら、1年間の準備期間を経て、暗闇で心地の良い距離（ソーシャルディスタンス）をとりながらも冒険できる、新たな体験型ソーシャルエンターテインメントとして生まれ変わりました。

声や音、あらゆる感覚に着目しながら、人と人とのかわり、つながりをどう育み、保っていくのかを体感していく。身体的距離が必要なwithコロナ時代だからこそこのプログラムです。

コロナ禍で会いたい人と会えない日々が続く今、多くの人が見つめなおしたい人と人とのつながりや、今だからこそ一層強く感じられる「再会できる喜び」を、体感できる真っ暗闇です。



DIALOGUE IN SILENCE

言葉の壁を超えて、 人はもっと自由になる



音のない世界で、言葉の壁を超えた対話を楽しむエンターテイメント、それがダイアログ・イン・サイレンス。

体験を案内するのは、音声に頼らず対話をする達人、聴覚障害者のアテンドです。

参加者は、音を遮断するヘッドセットを装着。

静寂の中で、集中力、観察力、表現力を高め、解放感のある自由を体験します。

そしてボディーランゲージなど、音や声を出さず、互いにコミュニケーションをとる方法を発見していきます。

たとえ母国語の異なる人であっても、想像以上の交流が深まります。

1998年にドイツで開催されて以降、フランス、イスラエル、メキシコ、トルコ、中国でも開催。

これまで世界で100万人以上が体験しています。日本では2017年に初開催、約1万人が体験しました。

日本に静かな衝撃を起こす90分、はじまります。

<https://dis.dialogue.or.jp/>

創設 (2005) ドイツの哲学博士
アンドレアス・ハイネック
開催実績 フランス、イスラエル、
メキシコ、トルコ、中国
体験者数 100 万人以上

日本開催

(2017) 短期開催

(2018) 短期開催

(2019) 短期開催

(2020) 東京・竹芝

ダイアログ・ミュージアム
「対話の森」常設

体験者数 1 万人超

▶2021年8月現在

東京・竹芝「対話の森」にて開催中



Voice

体験者の感想



ちゃんと理解できているのか心配でしたが、少しずつ意思疎通ができてきたような気持ちになってきました。改めて、方法はなんでもよくて、お互いに伝えあおうとすることが大切なのだと気づきました。(30代・女性)

言葉があってもなくても、耳が聞こえても聞こえなくても、相手のことをよく見たり、受け取ろうとしているふるまいをお互いにすることが、対話をするうえで大事なことであるということ(男性)



心ははねて
心がゆれて
心ははじけて
心ふるえる
手が心を伝える 身体が気持ちを伝える
そんな時間でした。(50代・女性)

言葉にならないということは、決して何も言わないということではなく、言葉がないからこそその大きな力を生み出すことを実感しました。

さまざまな表情、形を生み出すこと。そして、生み出したものが自分の気持ちを変えていくこと。

さらに相手の気持ちをも変える力を持っていることを改めて知りました。特に笑顔の力は平和の未来を生み出す力になることを実感できありがたかったです。(50代・男性)



05/10

DIALOGUE WITH TIME

未来に会いに行こう。



歳を重ねることについて考えながら、
生き方について対話する体験型エンターテイメント、
それが「ダイアログ・ウィズ・タイム」。

体験を案内するのは、
人生を豊かに歩んでいる高齢者のアテンドです。
戦後から現在まで、激しく時代が変化する中、
どのように生きてきたのか。
人生経験を共有し、世代を超えた対話により、
自らのこれからを考えるきっかけを生み出します。
2012年にイスラエルで開催されて以降、
ドイツ、スイス、フィンランド、台湾、シンガポールでも
開催。日本では、2017年の3月に東京・外苑前会場にて1日
限定のプレ開催しました。2019年に短期開催しました。

新しい時代を、
どう生きていくかを考える体験を、あなたも。

創設（2012）ドイツの哲学博士
アンドレアス・ハイネック
開催実績 イスラエル、ドイツ、スイス、
フィンランド、台湾、
シンガポール
体験者数 100 万人以上

日本開催
（2017）1 日限定開催
（2019）短期開催
体験者数 300 人超

▶2021年8月現在
2020年内に開催を予定していたが、
新型コロナウイルス感染拡大により次回開催未定

<https://dwt.dialogue.or.jp/>

Voice

体験者の感想



私は今、年を取ることが不安です（それは自分の老化を感じたり、父母の姿を見たりして）。でもこうやって人生の先輩の話をたくさん聞きたいんだという事に気が付きました。こんなふうになりたい、こんなふうに住きたい、そんな先輩にたくさん逢いたいです。（20代・女性）

「人生は筋書きがないドラマ」と感じさせられました。このわずかな90分の間でしたが、ドラマを演じた気持ちになり、幸せな気分になりました。ありがとうございました。（60代・男性）



「おとしよりになっても「何かをしたい」と言う気持ちを忘れないようにしたい。私は、少し歳をとることがこわかったけれども、このままの自分でいいんだと思いました」（小6・女子）

高齢者をひとくくりにはできない。年齢を経た人間ひとりひとりが存在している（40代・女性）

とてもドキドキしながら”年齢”やバックグラウンドを越えた対話ができることに感動しました。これまで分からなかった”年齢をかさねること”についてももう少し考えてみたい、今”高齢”にある人とも話してみたいという気持ちになりました。（30代・男性）

BUSINESS WORKSHOP

ダイアログのビジネスワークショップでは、視覚をあえて排除することで、コミュニケーションの本質に立ち返り、チームとしての協力・協働の機会を生み出すことで、自己や他者の可能性に自律的に気付いていきます。

さらに、このワークを案内するのは特別にトレーニングを受けた視覚障害者。いつもは助ける側の彼らに「助けられる」経験は、固定化されがちな私たちの視点を広げてくれます。

チームビルディングやコミュニケーションを目的とした関係性構築やレジリエンス力向上、多様性（D&I）理解を目的とし、これまで600社以上の企業・団体でご利用いただきました。「見えない」制約があるからこそ、それを越えた先に学びと革新があることを体感できる日本で唯一の研修です。

Voice
体験者の感想

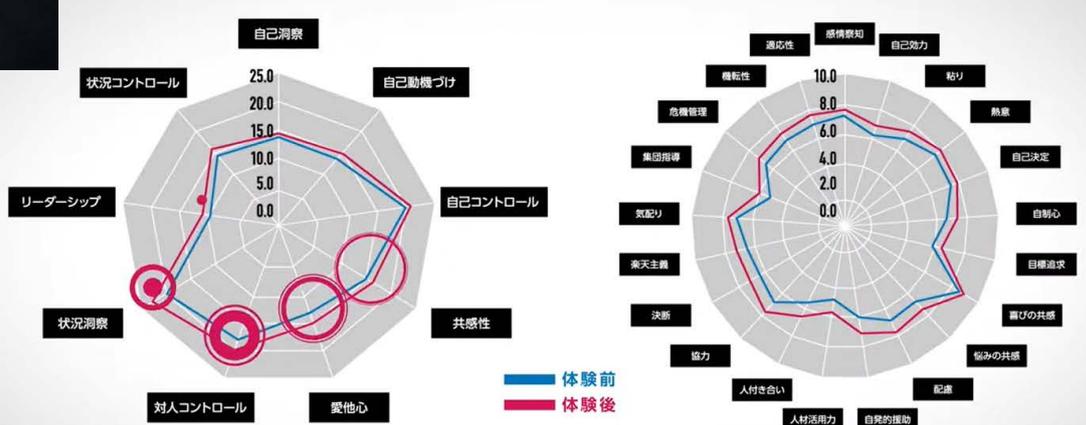


チーム以外の人と横の関係性ができたことで、縦と横、両方つながれば、組織としてもっと強くなると思いました」(Y社)

「リーダーシップに必要なのは『信頼されること』から『信頼すること』に、『目的を持つこと』から『共有すること』に変化した。自分軸から、相手軸に変わった」(N社)

「どんなことがあっても前を向いて進んでいける仲間だと思いました」(I社)

ワークショップ体験後に、EQの全項目でスコア改善を確認



特に「他者対応」「状況対応」領域で大きくスコアを伸ばす

DIALOGUE DIVERSITY LAB

視覚・聴覚障害者の強みのひとつに、五感のひとつを閉ざすことで他の感覚の解像度が高まることあげられます。2030年のSDGs目標達成に不可欠なユニバーサルデザインやダイバーシティ&インクルージョンの視点はもちろんのこと、「障害者だからこそ」持ちうる感性とダイアログで培われた丁寧な対話から、視覚・聴覚障害者アテンドとともに新しい発想や着眼点を探り、組織と社会に還元していきます。



■施設コンサルティング

某新規ホテルオープン時における、ユーザビリティやアクセスビリティなどに関するコンサルティングを実施。実際に足を運び、施設や商品のハード・ソフト面の改善のお手伝いを実施しました



DIALOGUE
IN THE DARK
DIVERSITY LAB

■YouTube企画「盲点からのアプローチ」

視覚障害者ならではの視点の共有は、私たちの日常に埋もれてしまいがちな、はっとする発見にあふれています。自分だけでは見えない視点、見落としてしまう「盲点」を目の見えない人とともに見つけていくオンライン企画です。



■伝統工芸とのコラボレーション商品

会津漆器の職人や今治タオルのメーカーとコラボレーションし、視覚障害者だからこそその感性を生かし、商品開発を行っています



■Yahoo! JAPAN 「聞こえる選挙」

国政・地方選挙に際して発行される選挙公報は、PDF形式でも配布されますが、視覚障害者が利用する読み上げソフトに対応していないため、選挙に参加しづらい状況が続いていました。その課題を解決するためYahoo! JAPANが公開した「聞こえる選挙」に監修として参加しました。



■学校向け講演会

視覚・聴覚障害者が実際に赴き、出会ってもらいながら、ダイバーシティや共生社会を考えていただく講演も実施しております。

また、企業向けにイノベーションをテーマとしたトークセッションも可能です。

その他、

- ・企業向けのイノベーションに関する講演会やトークセッション
- ・暗闇や静寂を利用しての商品体験や商品発表 など実施

FOR KIDS / TEENS

体験と遊びを通して、自己と他者を認め、 多様な人と関わりあうことの楽しさと豊かさを感じる

「学年とか、今まで話したことがないとかで決めつけたりすることがなくて、みんなで笑いあって楽しんだ。」

世界のダイアログは学校教育の一環として利用され、体験者のうち60%がこどもです。でも、日本にはその仕組みがないために、たったの4%。

世界では、ダイアログを体験したこどもたちにいい変化をもたらすことが明らかになっていきます。日本でも2018年度より体験前後の効果測定を行った結果、自己肯定感や自己有用感の向上、多様性や障害者への肯定的な意識の変化、他者への共感力などにポジティブな変化が起きてきました。

対話する力、探究する力を遊びながら感じられるのが、ダイアログ体験です。

私たちは、こどもたちに驚きに満ちた体験をたくさんしてもらい、次世代へのバトンを引き継いでいきたいと考えています。

みみが聞こえなくても、友だちになれるんだと思いました。またダイアログ・イン・サイレンスにいきたいと思います。
(サイレンス体験・小4)

体験したことで、手とかを使えば話せるということが考えがかわった。大変だとおもっていた手話も、やってみれば楽しかったし、どうじに、ちょうかくしょうがいの方へも好感が持てた
(サイレンス体験・小4)

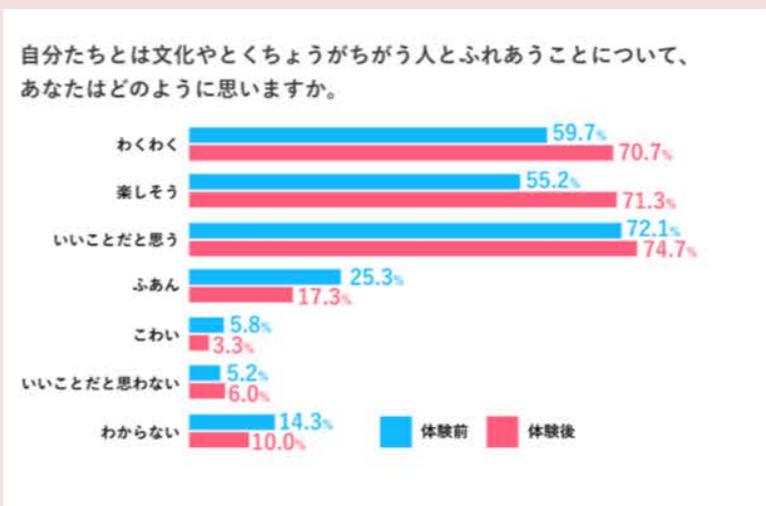
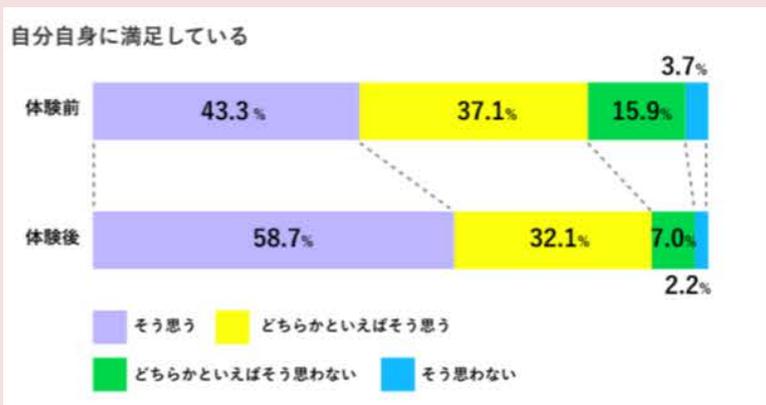
まっくらの中で、目の見えない人に助けもらった。駅で時どき見かける白いツエをついている人に今度声をかけてみようと思った。でもその前に電車の中で立っているお年寄りに席をゆずれた。僕は少し恥ずかしい気持ちから脱出できたんだと思う。ダイアログには人を変える力がある。
(ダーク体験・小4)



暗やみの中でドキドキしていたら、アテンドの人から、となりの人と手をつないで歩くといいよと言われた。手をつないだ子は、いつもはきれいな子なのに、その子の手はやわらかくて温かった。ちょっと好きになれて、もっと仲良くしたい気持ちになった。でもどうしてアテンドは私がこわかったことを知っていたのかがナゾ。
(ダーク体験・小5)



体験により、自己肯定感や自己有用感の向上、多様性理解、共感力にポジティブな変化がありました



- 【2013年度】
 - ・公益財団法人こうべ市民福祉振興協会後援 神戸市内の小学校4年生254名が体験
- 【2014年度】
 - ・同上 神戸市内の小学校4年生379名が体験
- 【2016年度】
 - ・佐賀県との協働型委託事業 県推進子育てし大県『さが』の一環として 佐賀県内小学校11校の3～5年生812名が体験
 - ・東京都オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として 東京都渋谷区の小・中学生206名が体験
 - ・埼玉県立特別支援学校塙保己一学園にて開催
- 【2017年度】
 - ・同上 佐賀県事業の一環として 佐賀県内小学校11校の3年～5年生が体験
 - ・同上、東京都オリンピック・パラリンピック教育推進の一環として 東京都渋谷区の小・中学生225名が体験
 - ・文部科学省「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」の一環として 熊本県立第二高校の生徒80名が体験
- 【2018年度】
 - ・同上 佐賀県事業の一環として 佐賀県内小学校11校の3年、4年、5年生が体験
- 【2019年度】
 - ・文部科学省「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解（心のバリアフリー）の推進事業」の一環として 静岡県立沼津視覚特別支援学校にて230名が体験
 - ・東京都副校長会会議にて、ショート体験を開催
- 【2020年度】
 - ・萩生田文部科学大臣がダイアログ・ミュージアムを視察。サイレンスを体験



人材雇用・育成

見えないも、聞こえないも、歳をとるも、
すごい能力に変えることができるんです。

20年間にわたり対話のプロフェッショナルを養成してきたダイアログの
ノウハウと、各専門分野で活躍する講師陣による講義・ワークショップ
(約4カ月、全12回) から、「対話を通じて社会を変える」変革者を目指
すためのスクールを開講しました。ダイアログのアテンドを目指す方はも
とより、学生の方、企業や行政に所属しながらコミュニケーションスキル
を磨き仕事に役立てたい方、新たな時代に広く社会で活躍されたい方向け
の講座です。

見えない・聞こえない・高齢者が、経験を活かし豊かな社会へと変えてい
くチェンジメーカーに。公式なダイアログ・アテンドを目指すだけでな
く、組織の中でのコミュニケーションを促進する、広く社会で活躍する、
新たな能力開発を目指すためのスクールです。

2018年6月25日朝日新聞朝刊でのメッセージ広告：
<https://attend-school.dialogue.or.jp/pdf/paper.pdf>

開催実績：

- 2018年 8月開講 ダークコース第一期
 - 2018年12月開講 サイレンスコース第一期
 - 2021年 7月開講 サイレンスコース第二期
- ※第二期サイレンスコースは日本財団の助成の下、
「企業で働く聴覚障害者」を対象とし実施



求む

見えないも、聞こえないも、
歳をとるも、すごい能力に、
変えることができるんです。

「見えないも、聞こえないも、歳をとるも、すごい能力に変えることができるんです。」というメッセージが、多くの人々の心を打った。2018年6月25日朝日新聞朝刊に掲載されたこのメッセージ広告は、ダイアログ・アテンドスクールの存在を広く知ってもらうための重要な役割を果たした。この広告を見た多くの人々が、自分自身や周囲の人々について考え、行動を起こすきっかけとなった。この広告の成功は、ダイアログ・アテンドスクールの理念と活動が社会に受け入れられていることを示している。

2019年秋、「ダイアログ・アテンドスクール」ダークコース開講。
「ダイアログ・アテンドスクール」の申し込みは「ダイアログ・アテンドスクール」
2020年内、「ダイアログ・ミュージアム」オープン。

受講条件		
<input type="checkbox"/> 視覚障害者	<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 70歳以上の高齢者

Dialogue Japan Society

2019年度「ダイアログ・ウィズ・タイム」「ダイアログ・イン・サイレンス」を
新卒の上りでも開講いたします。HP: dialogue.or.jp 電話: 03-6362-2222
ダイアログの活動を広げてくださる
パートナーの皆さまを募集しています。



自分の感情がもっともっと表情として
できるようになり、前より自分が好きに
なって、相手の目を見て笑顔で対話す
る自分がいることに気づきました。
また、自分が社会を変革する触媒と
してどうあるかどうか考えるようにな
りました。(サイレンス)



調査・研究

対話や視覚・聴覚障害者に関する調査研究を行っています。コロナ禍においては視覚障害者・聴覚障害者が抱える困難に関する実態調査を複数回行い、その困難・不便を捉え社会に発信しました。それに加え、それら困難に直面した彼らの工夫や知恵こそが、これからの社会課題解決へのヒントとなると考えています。単なる調査のみならず、社会変革に向けた提案も併せて行っていきます。

調査実績：

▶2020年4月

在宅長期化に伴う視覚障害者・聴覚障害者が抱える困難に関する実態を把握。特に、生活面・情報取得の面や、コミュニケーションに関する事項を調査

▶2020年10月

コロナ禍における「新しい生活様式」下での視覚障害者・聴覚障害者の課題・機会・可能性に関するアンケート調査および「だれもが置いてきぼりにならない」新しい生活様式を提案

▶2021年1月

第三回コロナ禍における聴覚障害者の生活実態を調査。特にオンラインに着目し、その困難と解決法を提案

SDGSへの取り組み

ソーシャルエンターテイメントや企業研修、こども向けプログラムをはじめとする各事業を通して「誰一人取り残さない」社会を目指し、活動をしてきました。今後はさまざまなステークホルダーとともに下記目標を掲げながら持続可能な社会づくりによりいっそう貢献します。

 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	 <p>17 パートナースHIPで目標を達成しよう</p>
あらゆる年齢・障害のあるすべての人々の安心安全な環境と福祉を推進する	異なる文化や特徴を持つ人々を理解し、自己と他者を受け入れ肯定することで、人と関わることの楽しさと学びに繋げる	対等性や多様性の理解から、個と組織力を高め、生産性向上に寄与する	だれもがかけがえない存在であると感じられる社会づくりをすすめる	だれもが安全安心に移動手段を使い、参加ができる街づくりに寄与する	600社以上のパートナーシップの経験をもとに効果的な連携やプログラム提供を進める

innovative
新しい価値を創る
communicative
関係性を構築する
diversity & inclusion
多様性を理解し、活かす





ご支援の方法

ふるさと納税

佐賀県へのふるさと納税を通じて、実質無料でダイアログのご活動をご支援いただけます（※）
<https://didsaga.dialogue.or.jp/furusatonouzei/>

マンスリーサポーター

毎月のご支援（月1,000円～）で「森の住民」としてダイアログをともに育てていただけます。特別イベントなども実施しております。
<https://djs.dialogue.or.jp/supporter/>

ワンタイムサポート

1回のみのご寄付でもご支援いただけます。

企業・団体パートナー

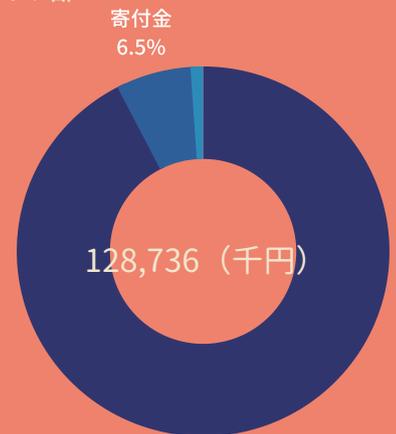
ご協賛のみならず、社会課題解決に向けてプロジェクトをともにしたり、こどもたち向けのプログラム開発など、さまざまなかたちでパートナーとなってくださる企業・団体を募集しています。

体験とクチコミで応援する

まずはぜひ、ダイアログ・ミュージアム「対話の森」でご体験くださいませ！ご感想をご友人やSNSで広めていただくことも、私たちの大きなチカラになります。

収支報告

収入の部



支出の部



これまでのクラウドファンディングでは、2,325名の方にご支援いただきました！



※支援先はNPO法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティです。NPO法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティは、(社)ダイアログ・ジャパン・ソサエティがノウハウや各種資源を提供し、協働して日本のダイアログ・プロジェクトを推進しています。

DIALOGUE SUPPORTERS

アンバサダーのみなさま

- 赤司 展子 (ウィーシュタインズ代表)
石橋 京士 (弁護士)
一木 典子 (株式会社オレンジページ代表取締役社長)
伊藤 詩織 (ジャーナリスト、映像作家)
伊藤 美歩 (Music Dialogue理事、事務局長)
岩井 睦雄 (日本たばこ産業株式会社代表取締役副会長)
大胡田 誠 (おおごだ法律事務所代表/元ダイアログ・イン・ザ・ダークアテンド)
乙武 洋匡 (作家)
表 輝幸 (東日本旅客鉄道株式会社 執行役員 事業創造本部副本部長)
川崎 義弘 (サウンドアーティスト)
國井 修 (世界基金投資効果戦略局長、医師)
小島 慶子 (タレント・エッセイスト)
後藤 千絵 (ノックス岐阜代表理事)
駒崎 弘樹 (認定NPO法人フローレンス代表理事)
佐藤 大吾 (あしなが育英会理事)
鈴木 款 (ジャーナリスト/フジテレビ解説委員)
高橋 政代 (株式会社ビジョンケア 代表取締役社長)
高橋 ゆき (株式会社ベアーズ取締役副社長)
瀧口 徹 (弁護士)
寺尾 のぞみ (NPO法人ミステリオ代表)
花岡 洋行 (あしなが育英会事務局次長)
早川 明伸 (弁護士)
船橋 力 (文部科学省「トビタテ! 留学JAPAN」ディレクター)
古田 大輔 (ジャーナリスト、メディアコラボ代表)
堀内 勉 (多摩大学社会的投資研究所教授)
本田 武弘 (双日株式会社 常勤監査役)
松森 果林 (ユニバーサルデザインコンサルタント/ダイアログ・イン・サイレンスアテンド)
松崎 丈 (国立大学法人 宮城教育大学 准教授)
松中 権 (グッドエイジングエールズ代表、LGBTQアクティビスト)
三宅 琢 (公益社団法人 Next Vision ネクストビジョン 理事)
宮本 聡 (株式会社リビルド社会貢献部長)
宮城 治男 (NPO法人ETIC.代表理事)
安淵 聖司 (アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長)
油井 元太郎 (モリウミアス代表)
米倉 誠一郎 (一般社団法人Creative Response-Social Innovation School 学長)
渡辺 由美子 (NPO法人キッズドア理事長)
若林 直子 (PRコンサルタント)
志村 季世恵 (一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ代表理事)
志村 真介 (ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン代表) 他 (敬称略・五十音順)

サポーター企業のみなさま

特別協賛



子どもたちに誇れるしごとを。



協賛



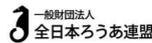
特別協力



協力



後援



団体概要

所在地 東京都港区海岸1-10-45 アトレ竹芝シアター棟1階
設立 2011年11月25日
代表理事 志村 季世恵
URL <https://djs.dialogue.or.jp/>

理事

石川 治江（社会福祉法人 にんじんの会 理事長、NPO法人ケア・センターやわらぎ代表理事、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科客員教授）
岩井 睦雄（日本たばこ産業株式会社 代表取締役副会長）
及川 美紀（株式会社ポーラ 代表取締役社長）※2021年8月就任
大胡田 誠（弁護士、おおごだ法律事務所）
堀内 勉（多摩大学社会的投資研究所教授）
本田 武弘（双日株式会社 常勤監査役）
藤森 義明（株式会社LIXILグループ 相談役）
安淵 聖司（アクサ生命保険株式会社 代表取締役社長兼CEO）
志村 真介（ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン代表）

監事 鵜澤 秀彦（鵜澤税理士事務所）

目的

我が国の社会、地域、企業、学校、家庭においてコミュニケーションロスにより社会資本である人の可能性が低下しており、それぞれの文化や立場の違いを相互理解する対話がいま最も必要とされていることにかんがみ、誰もが対等に対話することで協力し信頼し安心して社会参加ができるようにし、もっとより豊かで多様性のある社会の形成及び発展に寄与することを目的としています。

事業内容

- ・対話、五感及び異文化コミュニケーションに関する調査・研究事業
- ・対話、五感及び〃 異文化コミュニケーションに関する各種セミナー・講演・ワークショップ・出版等による普及啓蒙事業
- ・対話の場を創出するための事業
- ・対話を促進するファシリテーターの育成に関する事業
- ・障害者の社会参加に必要な自立、能力向上に関する事業
- ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業

事業体制

一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティは、Dialogue Social Enterprise GmbH（CEO：アンドレアス・ハイネケ博士）より日本で唯一「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」、「ダイアログ・イン・サイレンス」、「ダイアログ・ウィズ・タイム」のライセンスを受けています



沿革

- 1999.11 黎明プロジェクト／東京ビッグサイト<DID>
2000.5 ジーベックホール／神戸<DID>
2000.12 東北芸術工科大学<DID>
2001.10 せんだいメディアテーク／仙台<DID>
2002.6 Workshop in SRL <DID>
2002.11 東京ドイツ文化センター／東京 <DID>
2003.8 パークタワーホール／東京 <DID>
2003.10 Showcase in 宮城県立盲学校 <DID>
2003.11 Showcase in 慶應義塾大学 SFC<DID>
2003.11 Showcase in はこぎき
くらやみやけん、みえるとよ、<DID>
2004.3 Workshop for Children 「CAMP」 大川センター
／京都 <DID>
2004.7 DID2014 / 東京<DID>
2004.11 Showcase in 慶應義塾大学 SFC <DID>
2005.2 Showcase in 立教大学
2005.3 Showcase in 北方圏学術情報センター / 札幌 <DID>
2005.8 Showcase in ジーベックホール／神戸<DID>
2005.10 D-HAUS・旧自治大学キャンパス／東京 <DID>
2005.11 Workshop for Children こどもの城／東京 <DID>
2006.2 Dior Gaucho x Dialog in the Dark <DID>
2006.6 Workshop for Children こどもの城／東京<DID>
2006.8 DID2016 / 東京 <DID>
2007.9 「学校の放課後」旧赤坂小学校／東京<DID>
2006.10 Showcase in 横浜市立盲学校 <DID>
2008.8 学士会館／東京<DID>
2008.10 日本科学未来館／東京<DID>
2009.3 東京・外苑前常設会場オープン <DID>
2012.3 東日本大震災復興 Showcase in 福島・郡山
(英国フィッシュ財団助成) <DID>
2013.4 積水ハウス(株)共創プロジェクト 「対話のある家」
大阪会場オープン <DID>
2013.10 Showcase in 神戸しあわせの村<DID>
2014.11 Showcase in 神戸しあわせの村<DID> 2015.8
Workshop for Children 佐賀
(佐賀県協働型委託事業) <DID>
2016.7 渋谷区立の小・中学校にて
オリンピック・パラリンピック教育に導入<DID>
2016.8 Showcase in 大分
(大分県生活環境部同和・人権対策課主宰)<DID>
2016.9 Workshop for Children 佐賀
(佐賀県協働型委託事業) <DID>
2016.11 Showcase in TOKYO SOCIAL FES
(東京都福祉保健局主宰) <DID>
2016.12 Showcase in 埼玉県立特別支援学校
塙保己一学園<DID>
2016.12 ダイアログ・ウィズ・タイムプレ開催 <DWT>
2017.8 ダイアログ・イン・サイレンス初開催<DIS>
2017.8 東京・外苑前常設会場クローズ<DID>
2017.8 クラウドファンディング挑戦
2017.11 Showcase in 東京都文京区
地域支援フォーラム<DID>
2017.12 Workshop for Children 熊本 (学校に
おける交流及び共同学習を通じた障害者
理解 (心のバリアフリー) の推進事業) <DID>
2018.1 Showcase for 2020 Tokyo 「暗闇で感じる
日本文化」 (内閣官房オリンピック・
パラリンピック推進本部事業局委託事業) <DID>
2018.2 「来た KITA オリパラプロジェクト」
／東京・北区<DID>
2018.4 ニコニコ超会議 2018 出展<DID>
2018.6 Workshop for Children 佐賀
(佐賀県協働型委託事業) <DID>
2018.6 クラウドファンディング挑戦、達成
2018.6 朝日新聞にメッセージ広告を掲出
2018.8 ダイアログ・イン・サイレンス短期開催
2018.8 ダイアログ・アテンドスクール ダーク第一期開講
2018.9 人事院公務員研修所向け
3年目職員研修実施<DID>
2018.10 Showcase in 金沢 21 世紀美術館／石川<DID>
2018.11 Workshop for Children 佐賀
(佐賀県協働型委託事業) <DID>
2018.12 ダイアログ・アテンドスクール サイレンス第一期開講
2019.2 「来た KITA オリパラプロジェクト」
／東京・北区<DID>
2019.4 ニコニコ超会議 2019 出展<DID>
2018.8 ダイアログ・イン・サイレンス短期開催
2018.8 ダイアログ・ウィズ・タイム短期開催
2019.9 人事院公務員研修所向け
3年目職員研修実施<DID>
2019.11 三井ガーデンホテル神宮外苑の杜
プレミア内「内なる美、ととのう暗闇。」常設
常設会場オープン<DID>
2020.3 ダイアログ・イン・ザ・ダーク オンライン スタディ
初開催<DID>
2020.8 ダイアログ・ミュージアム「対話の森」常設オープン
2020.8 ダイアログ・イン・ザ・ライト開催<DID>
調布市立飛田給小学校
2020.9 人事院公務員研修所向け
3年目職員研修実施<DIS>
2020.10 調布市立飛田給小学校<DIS>
2020.10 新宿区立花園小学校<DIS>
2021.1 日本PR大賞受賞
2021.2 クラウドファンディング挑戦

書籍



暗闇から世界が変わる ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンの挑戦 志村 真介 (講談社現代新書)

ある日出合った新聞の囲み記事を読み、最初はひとり、まったく手探りの状況で、社会を変える挑戦が始まりました。すべての肩書き、立場から自由になれる「暗闇での対話」から、人間関係の意識も変わっていくのです。

まっくらな中での対話 茂木健一郎withダイアログ・イン・ザ・ダーク (講談社文庫)

ダイアログ・イン・ザ・ダークの真っ暗闇の空間へ、視覚障害者のアテンドスタッフに導かれ、おずおずと入っていく参加者は、視覚が遮断されることによって、それ以外の感覚が解放される心地よさに気づきます。暗闇で癒される脳と心の謎に茂木健一郎氏が志村季世恵やアテンドスタッフとの対談を通して迫ります。



さよならの先 志村 季世恵 (講談社文庫)

いのちの終わりが迫った人が、大切な人に残す「最後のメッセージ」。自分が死んだ後も、家族や恋人を支え続けられる言葉とは何か…多くの末期がんの方々に寄り添い、ただ死をとする、そのお手伝いをしてきたセラピスト志村季世恵によるエッセイ集。

いのちのバトン 志村 季世恵 (講談社文庫)

大きな苦しみを抱えて孤独に陥った人のかたわらで、そっと耳を傾け、人や自然とのつながりを心に取り戻したり、悩みに支配された心の中の整理整頓を手伝うバースセラピストの、奇跡のエッセイ集。



DIALOG IN THE DARKー暗闇の中の対話ーみるということ ダイアログ・イン・ザ・ダーク (小学館)

すべてを「見える化」する今、目で見える情報の渦の中で感覚が麻痺していませんか？暗闇の中の対話を通じて感覚の在処に気づくことができます。



主な受賞歴

※2011年以前はNPO法人ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパンが主体

2004

(社)日本イベント産業振興協会主催 日本イベント大賞特別賞・社会貢献賞受賞並びに TBSラジオ & コミュニケーションズ社長賞受賞

2005

「まっくらやみの中の対話」がグッドデザイン賞 ユニバーサル賞受賞



2008

目を使わないアテンドの豊かな感性を活かし協働開発した「ダイアログ・イン・ザ・ダーク タオル」でグッドデザイン賞受賞



2011

団体代表理事・志村季世恵が「第1回社会イノベータ公志園決勝大会」にて審査委員特別賞、会場票第一位を受賞



2014

積水ハウスとの共創プログラム・住ムフムラボ「対話のある家」が「IAUDアワード2014」において“IAUDアワード賞”を受賞



2015

目を使わないアテンドの豊かな感性を活かし協働開発した会津漆器「めぐる」でグッドデザイン賞・ウッドデザイン賞受賞



2016

社会デザイン学会奨励賞受賞

2017

ダイアログ・イン・ザ・ダークおよびダイアログ・イン・サイレンスがbeyond2020プログラムとして認証

2020

「日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー」受賞



メディア掲載例 (一部)

13 2014年(平成26年)2月25日 火曜日 第4頁 (夕刊)

暗闇の力

疑似家族体験 心細さ自然に協力

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力するようになる。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

余計な情報なくモノの本質把握
日本ダイバーシティ推進協会の久保博徳代表理事の経験。暗闇では視覚を閉ざしたまま、コミュニケーションが自然になり、体験の共有で信頼関係が構築される。

記者が暗闇で体験した気づき
不安、孤独、恐怖
温度や空気の流れ
足や水の音と肌触り
暗闇に集中できる
他人の手が心もりの安心感
体験終了

くらやみカフェ 味や音に集中
命の危険を感じるような状況に陥ると、人は「暗闇」に引き込まれる。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

2016年(平成28年)10月9日(日曜日)

暗闇体験 見える信頼

社員研修で導入拡大

対話能力アップ・弱者理解も

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

記者リポ 声掛け合う存在あり
「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

小学生新聞

見えない、聞こえない 世界を体験

東京に「対話の森」

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

「見えない」から怖くない

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

脱力道場

「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」冬の章 再び訪れた、見える、第六感の衝撃

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

企業と人材 6

五感を活かした 研修の試み

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

DIAMOND IT&ビジネス

2030年のビジネスモデル

暗闇のソーシャル・エンターテインメント

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

レポート5選 2020

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。

「暗闇」がもたらす「心細さ」が、疑似家族体験を通じて、自然に協力を促す。暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。疑似家族体験は、暗闇の中で、手探りで進む。周囲の音や匂い、温度の変化が、心細さを増し、自然に協力を促す。

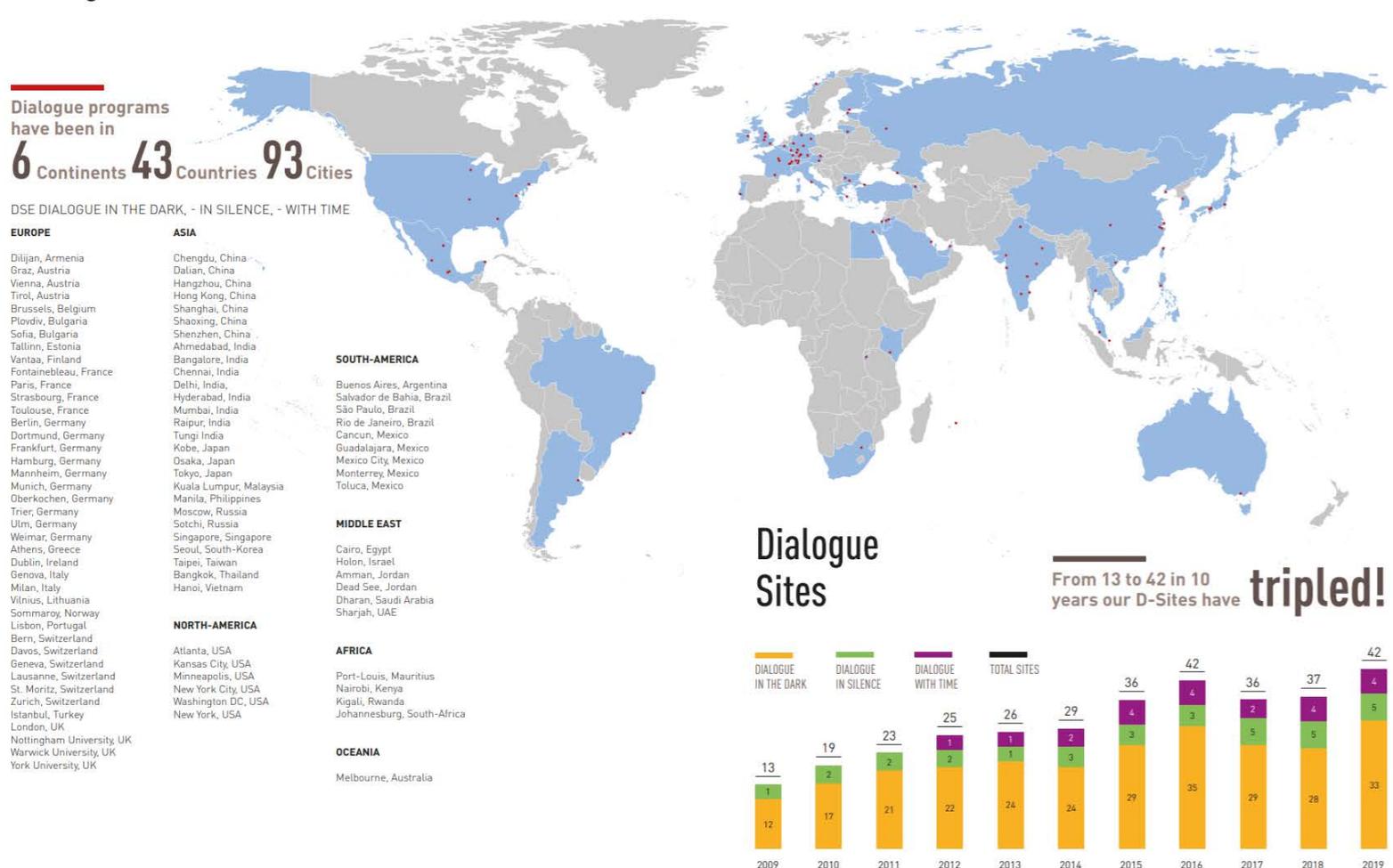
創設者 アンドレアス・ハイネッケ ANDREAS HEINECKE



ダイアログ・ソーシャル・エンタープライズ 創設者兼 CEO
 1955年ドイツ生まれ。1988年にダイアログ・イン・ザ・ダークを開始。2005年に西ヨーロッパ初のアショカ・フェロー、2007年にシュワブ財団のグローバルフェローに選出※。2008年にダイアログ・イン・ザ・ダークをフランチャイズ方式で運営するダイアログ・ソーシャル・エンタープライズを創設。2011年からヨーロッパビジネススクール教授（ソーシャルビジネスコース）。社会起業家、哲学博士。
 ※アショカ・フェローは米国の社会起業支援非営利組織「アショカ」(Ashoka: Innovators for the Public) が認定するソーシャル・アントレプレナー。シュワブ財団は社会起業の促進等を目的に設立されたスイスの非営利組織で、ダボス会議で知られる世界経済フォーラムを主催。

世界のダイアログ

Dialogue Around the World



Moving beyond difference



一般社団法人ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
東京都港区海岸一丁目10番45号 アトレ竹芝シアター棟 1F
ダイアログ・ミュージアム「対話の森」
info@dialogue-japan.org
03-6231-1640